

# 週刊 タバコの正体

ニコチン依存症の喫煙者は毎日、必ず何本かのタバコを吸う必要があります。だから下図にあるように、喫煙者は勤務中でも毎日何回かタバコを吸う時間が必要となってきます。タバコの有害性が一般に広く認識されていなかった半世紀前は、職場でタバコを吸いながら仕事をする光景は当たり前でしたが、受動喫煙の有害性が世間の常識となった現代では、タバコを吸いながら仕事ができる職場は、ほぼありません。つまりタバコを吸うためには職場を離れて喫煙場所に移動しなければならず、その間は仕事ができないのです。

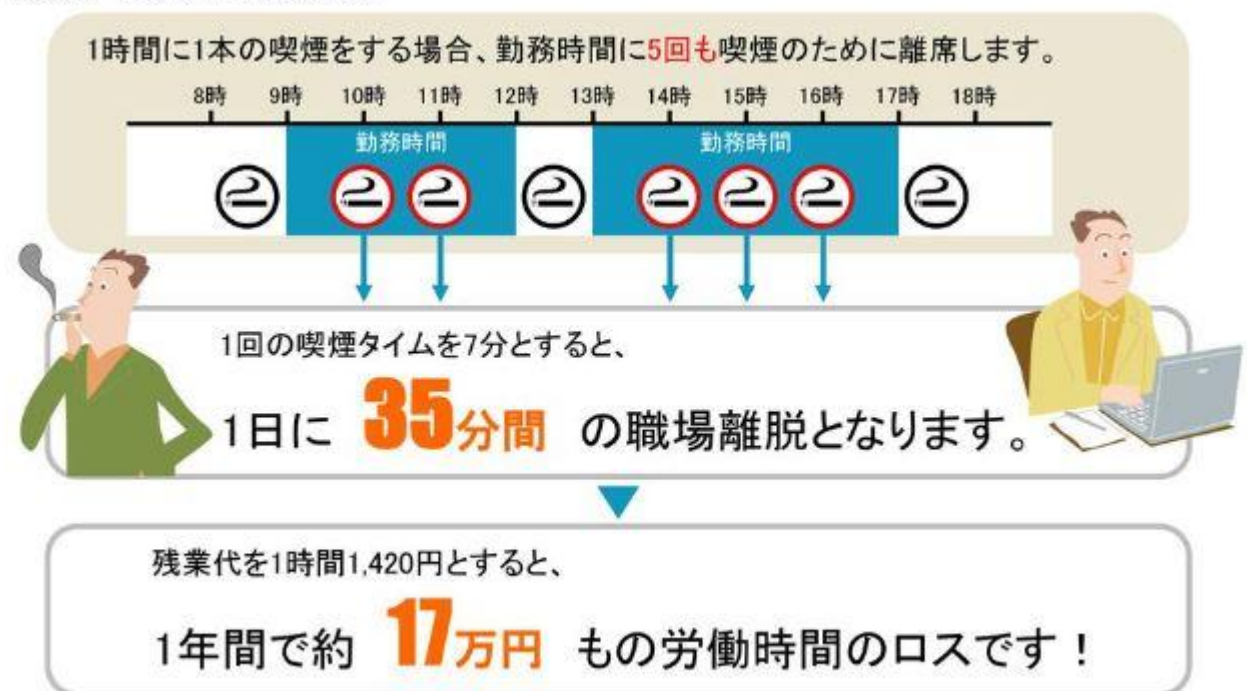
喫煙率は年々減少しており、平成29年度の成人喫煙率(JT全国喫煙者率調査)は男性28.2%、女性9.0%です。この状況からみると、大半の人はタバコを吸う時間が必要ありません。そんな多くの人たちは、勤務中に何度も職場を離れる喫煙者の様子をどのように感じるでしょうか。

さらに、経営者の立場にたてば下図のような労働時間のロスは好ましくありません。例えば、業種も規模も同じの企業で喫煙者がいないA社と大半が喫煙者のB社があったとすると、競争力に差がでると思いませんか。

「タバコを吸う時間」は必要ない方が生活しやすい時代です。

産業デザイン科 奥田 恭久

## 勤務中の喫煙による離席



厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業) 分担研究報告書  
職場における効果的な禁煙支援法の開発と普及のための制度に関する研究:平成18年度 [L20091111076]